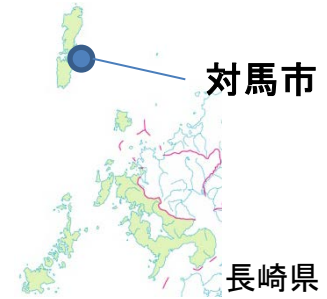


## 食卓の絵コンクール開催～家庭・地域と一体となり広く食育を展開～

- 対馬市は、厳しい地理的環境にありながらも、自然豊かな海や山に育てられた食材の宝庫であり、地場産品を再認識しながら、家庭・学校・地域が一体となった健康づくりや環境づくりに取り組んでいる。
- 具体的には、生産者と消費者の交流を図りながら、地産地消の推進と農業・漁業・商業の活性化に寄与することを目的とした「対馬食育フェスタ」や、食育推進リーダーの活動の促進として地区ごとの講習会、日本型食生活普及のための料理講習会、食育推進のため①農林部会②水産部会③健康づくり部会の開催、園児(年長児270名)を対象とした食卓の絵コンクールなどを実施した。



### 【取組の内容】

#### ○食卓の絵コンクール

子どもたちにとって食卓は、食に関する知識と食を選択する力を習得する場であり、食べ物の大切さや自然のすばらしさを学ぶことが出来る「生きた教材」である。

子どもたちの絵画を通じて、家庭全体で食について考え、関心を高めることを目的として「食卓の団らん、楽しい食事」をテーマに募集。



食卓の絵コンクール  
審査風景

#### ○食育推進リーダーの活動の促進

- ・研修会(1回)及び役員会(3回)、厳原、美津島、豊玉、峰、上県、上対馬地区(各5回)の講習会の開催。
- ・食育推進リーダーによる料理講習会の開催(78回、参加者数(延)2,636名、従事者数(延)379名)



料理講習会風景

### 【取組の成果】

平成25年度は、新たに「食卓の絵コンクール」を実施し、242点の応募となった。うち10点の入選作品は市報やHPに掲載することで食育PRにつながった。

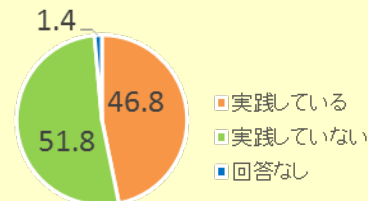
また、年度末には事業の評価と「第2次対馬市食育・地産地消推進計画」策定の基礎資料とするため、生活習慣病が最も関連する30歳以上59歳以下の2,500名を対象に「日本型食生活」実践度調査を実施。

今後は食育推進リーダーによる料理講習会等で、日本型食生活が普及・実践されることにより、将来的に地産地消(食料自給率向上)や生活習慣病予防(健康寿命の延伸)につなげたい。

#### 「日本型食生活」実践度調査結果(抜粋)

(調査対象:対馬市在住の30歳以上59歳以下の2,500名)  
回収率:31.7%(793名)

問 ヲホリックシンドロームの予防改善のため運動や食事など実践していますか



ヲホリックシンドロームの認知率は90%以上であるが、予防や改善のための食事や運動の実施率は50%以下であるため、さらなる「日本型食生活」の普及啓発活動を期待したい。  
(長崎県評価委員コメント)



対馬市食育キャラクター  
「どどんこくん」